

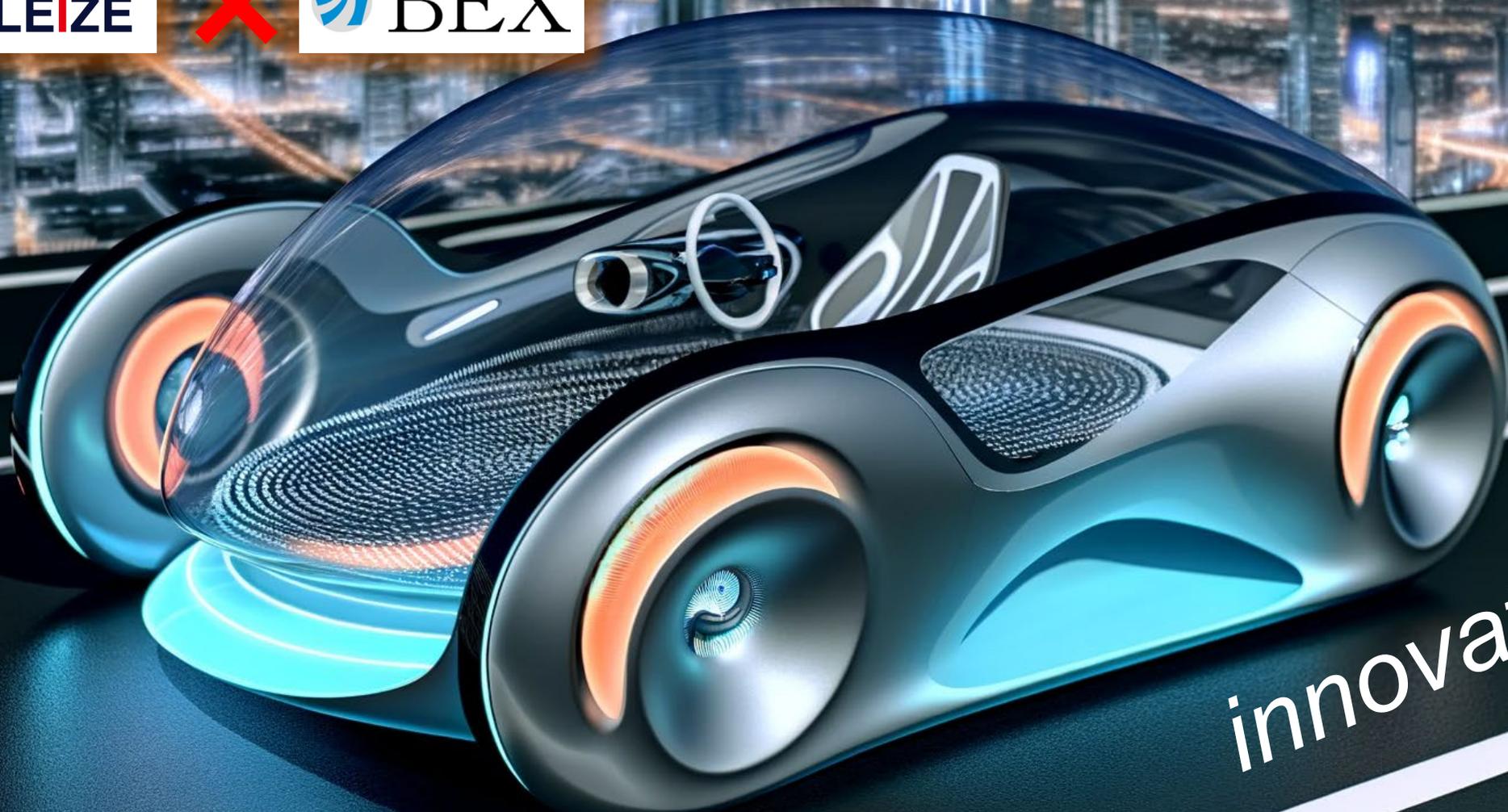


Realize Customize Maximize
TRIPLEIZE

株式会社BEX グループインについて

株式会社トリプルアイズ
(証券コード5026)

シン・結合



innovation

グローバルでプレゼンスを発揮する自動車業界で長年にわたって培ってきた実績（ナレッジ&スキル）とAIの独自開発をはじめとする先端技術力を新結合（イノベーション）し、日本のAI企業グループとしてオンリーワンのプレゼンスを獲得します。

CONTENTS

BEXグループイン概要

シナジー効果

財務インパクト

Appendix

対象会社	株式会社BEX (https://www.bex-inc.com/)
取得持分	100%株式取得
事業内容	自動車分野における機械設計開発事業、先端技術領域の研究・実装 (AI研究, EV設計)、ITシステムの設計開発事業
主要取引先	株式会社アイシン、小島プレス工業株式会社、住友電装株式会社、株式会社デンソー、トヨタ自動車株式会社、トヨタ車体株式会社、株式会社トヨタ車体研究所、株式会社トヨタプロダクションエンジニアリング トヨタ紡織株式会社、ニデックモビリティ株式会社 富士ソフト株式会社、Lean Mobility株式会社
事業規模	2023年3月期実績 売上1,551百万円、営業利益 86百万円、経常利益117百万円
株式取得金額	約6.5億円
資金手当て	取得金額の一部の2億円を金融機関から5年長期の借入にて調達予定
株式譲渡予定日	2024年7月1日(予定)
第三者割当増資	当社グループの企業価値向上を目的に株式会社BEX創業家代表取締役社長井口氏に対する約5.1億円の第三者割当増資
グループイン背景	同社の自動車設計業務にAIを活用することを目的に、当社AIエンジニア研修コンテンツを提供したことがきっかけ

技術

TECHNOLOGY

1980年の創業より44年。世界的自動車メーカーを設計力で支えるのが強み。同社エンジニアが関わった特許出願は100を超える

1980年創業

44年

特許出願に携わった発明件数

100件超

CATIAライセンス

42台

人材

PEOPLE

大手メーカーの自動車設計開発という魅力的な事業内容を背景とした安定した採用と優れた育成環境

安定した採用
優れた育成環境

エンジニア**197**名

システム開発

1994年
スタート

実績

PERFORMANCE

技術力を信頼され、取引先の70%はトヨタグループから受注しており、同グループなどの設計分野でシェアが高い
*右は独立系設計会社としての順位

空調

トヨタ車体内
シェア **1** 位

ボデーシェル

トヨタ車体内
シェア **2** 位

小型EV

Lean Mobility内
シェア **1** 位

トヨタ自動車 i-ROAD開発にも参画



※写真は「トヨタグローバルニュースルーム」より転載

センターコンソール

小島プレス工業内
シェア **1** 位

シート

トヨタ紡織内
シェア **1** 位

TOYOTA コンセプトカー i-ROAD

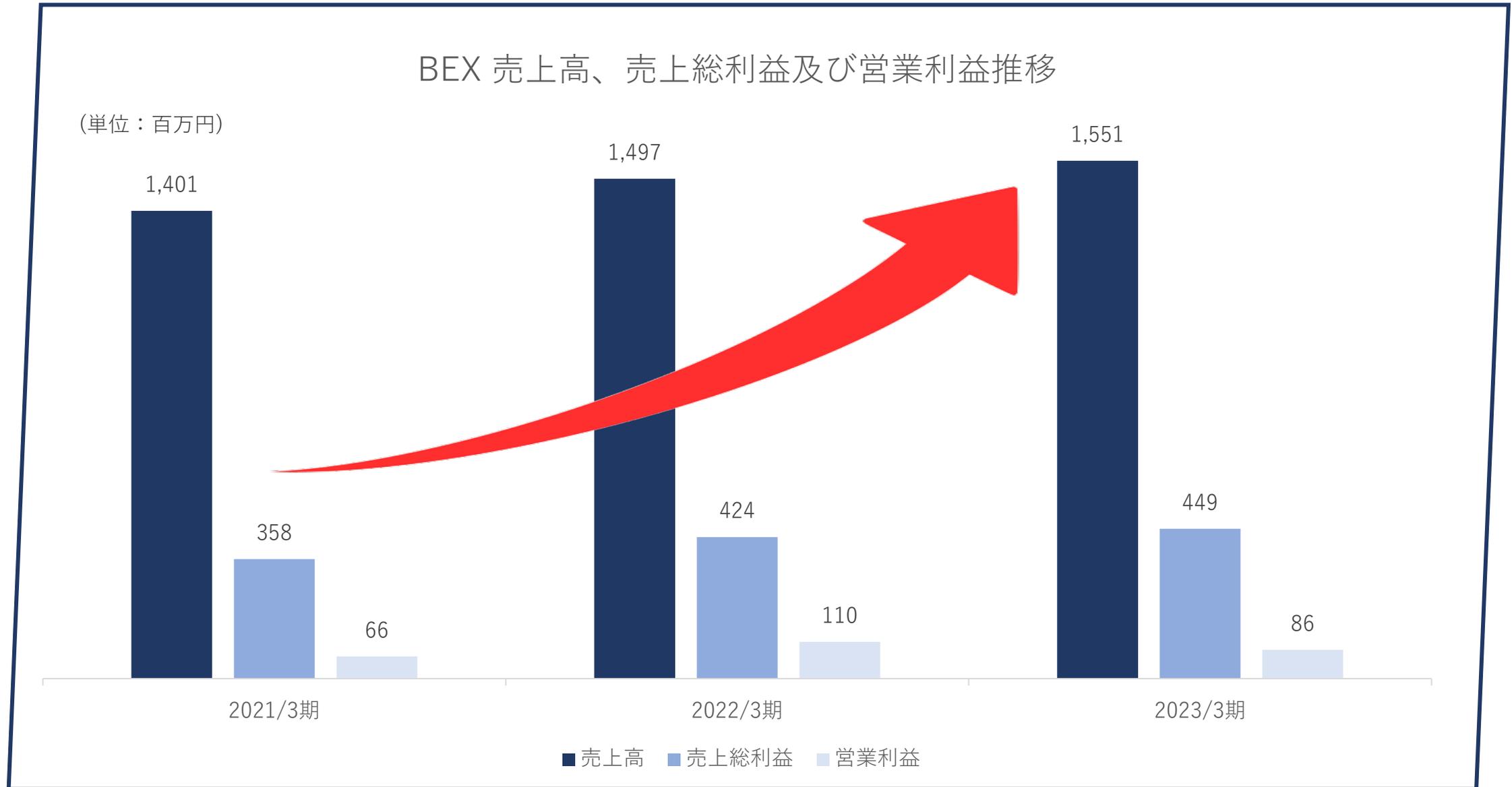
私たちの挑戦



BEXは創業以来、技術力を活かして様々なメーカーのサポートを行ってまいりました。その実績の1つを、実際の現場で活躍したスタッフのメッセージを添えてご紹介します。

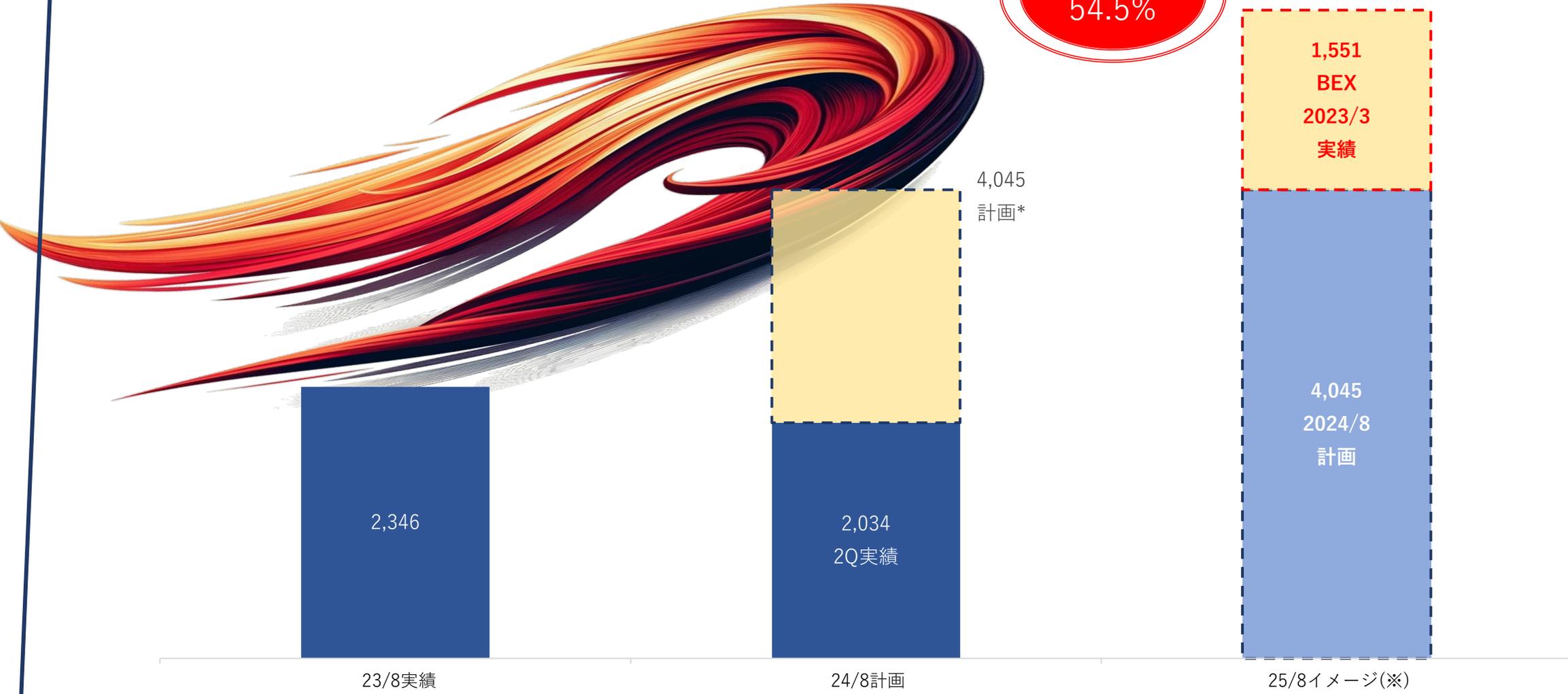
出典：BEX社コーポレートサイトより

ENGINEER MAKER BEX



連結売上高推移イメージ(百万円)

CAGR
54.5%



※24/8計画値4,045百万円に株式会社BEXの23/3実績値を単純合算したもの Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved



Realize Customize Maximize

TRIPLEIZE

ZERO FIELD

Synergy Overview

エンジニア
リソース

197名
うちITエンジニア**36名**
(2024/4/1現在)



連結**214名**
(2024/5/1現在)

エンジニアリソースの確保、人材市場での認知拡大、多様なキャリアの提示によるエンジニア採用力強化

顧客
ターゲット

自動車メーカー



情報通信、流通小売、
建設、電気機器

相互送客による顧客層の拡大
IT化、AI化が加速する自動車業界に対する先行対応による競合優位

事業
ドメイン

内装シート、
車体（骨格）などの
自動車部品設計



AIエンジン開発、GPU
サーバ製造販売による
ITシステム構築

AI化が加速する自動車業界に対する先進的対応、時代変化に迅速対応する開発管理の浸透と徹底された品質管理の仕組みを優位性へと醸成、先進モビリティのプロジェクトのスムーズスタート

CONTENTS

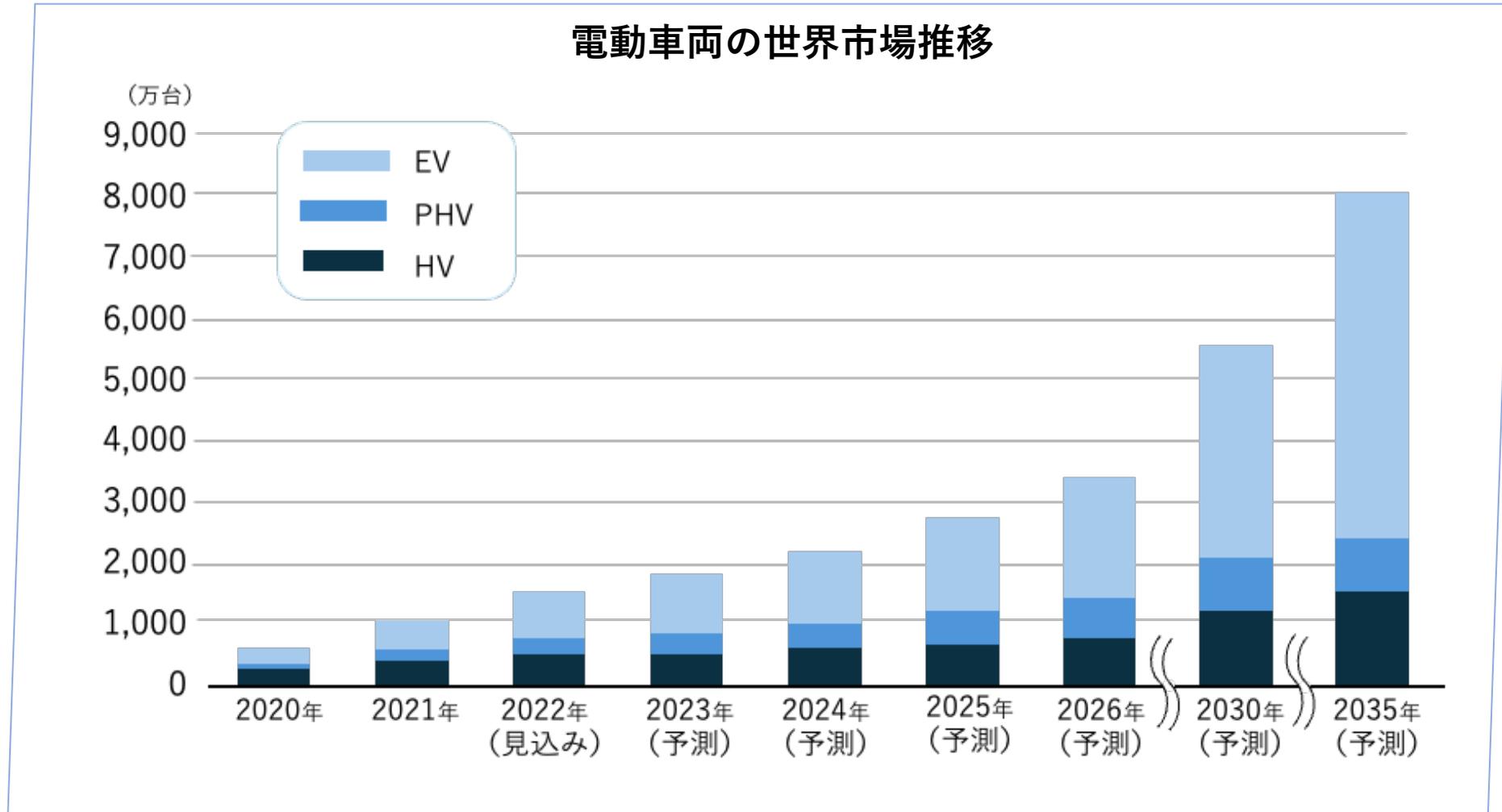
BEXグループイン概要

シナジー効果

財務インパクト

Appendix

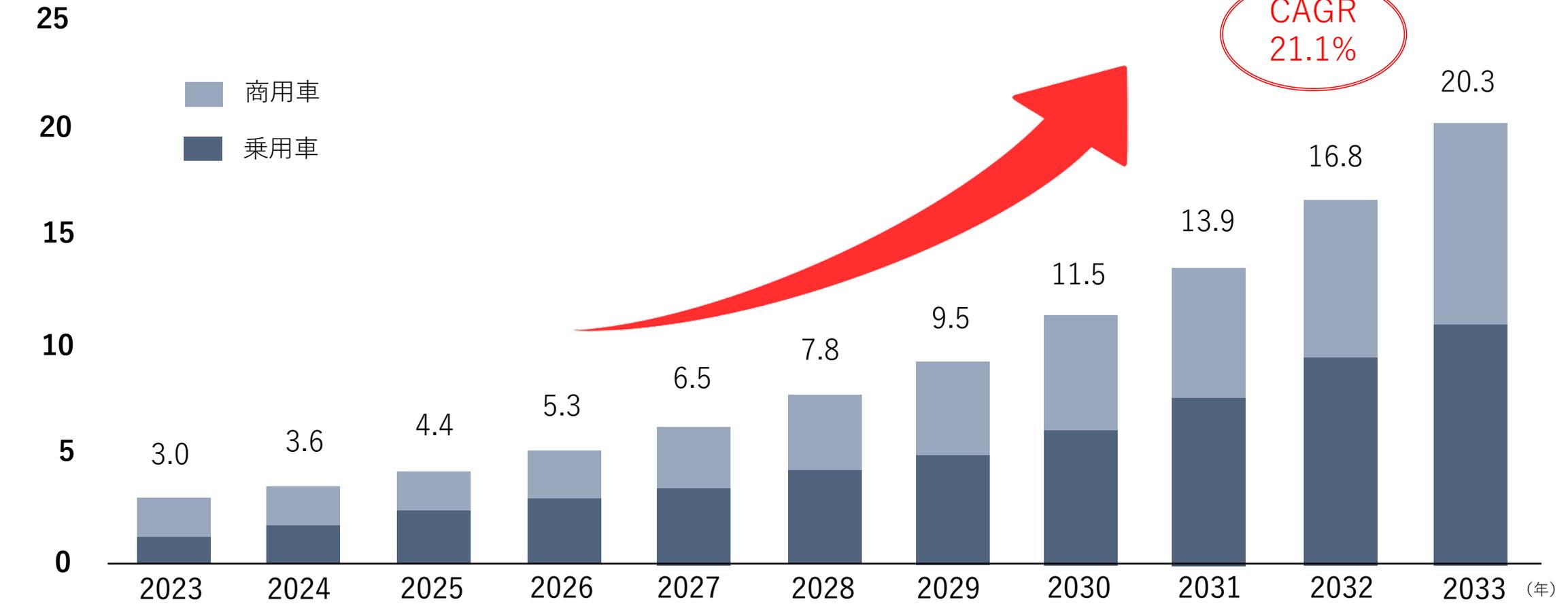
直近ではEV車の需要拡大には鈍化が見られますが、HV車やPHV車の需要も増加しています。自動車の電動化全体の需要トレンドは、今後数十年にわたって拡大すると予測されています。このように、自動車の動力は変わりつつあり、その多様性も広がっていくと考えられます。次世代車は「SDV（ソフトウェア・ディファインド・ビークル）」と呼ばれ、ハードに加えてソフトウェアも車の競争力を左右するようになります。



自動運転車における生成AI市場は、2023年の30億ドルから2033年には203億ドルに達すると予測しており、年平均成長率（CAGR）は21.1%と見込まれています。生成AIは、現実的なデータやシナリオのシミュレーションを通じて自動運転技術の向上に必須のテクノロジーであり、各国各メーカーで生成AIの採用が進んでいます。

自動運転車における生成AI市場

(10億米ドル)



CAGR
21.1%

出所： <https://market.us/report/generative-ai-in-autonomous-vehicles-market/>

運転支援システムが特定の条件下で完全に運転を担う「条件付き自動運転」といわれるレベル3以上のシステムが搭載された自動車は高級車中心に全世界で2030年には7,000万台規模に達するという予測がされています。「特定条件下での完全自動運転」（レベル4）、実証実験が各地で行われるようになっており、自動車とデジタル技術の融合はますます進む未来が想像できます。

自動運転

Level 5

あらゆる状況でドライバー不要となる完全自動運転

Level 4

特定の環境や条件下でドライバー不要となる完全自動運転

Level 3

特定の条件下での自動運転

Level 2

複数の自動運転機能が作動

Level 1

一部の機能（ステアリングや加速）の自動化

自動運転の実用化推移

(万台)

90,000,000

80,000,000

70,000,000

60,000,000

50,000,000

40,000,000

30,000,000

20,000,000

10,000,000

0

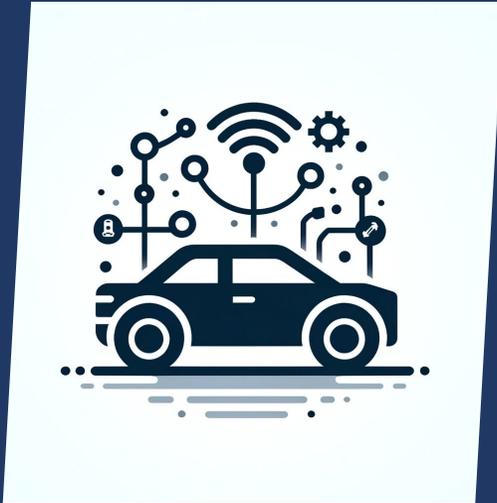
2020年（実績） 2021年（実績） 2022年（予測） 2023年（予測） 2024年（予測） 2025年（予測） 2030年（予測）

■ Level 1 ■ Level 2 ■ Level 3 ■ Level 4 ■ Level 5

出所：矢野経済研究所 https://jidouten-lab.com/u_37374

「CASE」とは次世代自動車業界を象徴するコンセプトで、「Connected」、「Autonomous」、「Smart/Shared & Services」、「Electric」の頭文字を取ったものです。ITやAIは「CASE」において中心的な役割を果たすと言われています。BEX社とトリプルアイズ社が連携・協働することで、自動車業界の持続可能性と利便性を向上させる「CASE」を体現する技術をもつグループとなります。

Connected



コネクテッド：**経路探索AI**
による渋滞緩和。MaaSのための
クラウドインフラ
の整備。

Autonomous



自動化：自動運転のための
画像認識AI
開発。

Smart/ Shared & Services



シェアリング：ユーザーIDのセキュ
アな管理を行う**顔認証AI**と
ブロックチェーン技術。

Electric



電動化：電気自動車の
消費電力最適化計算AIと
GPUサーバの
システム開発。

両社の協働は領域に応じて進行していきます。設計業務の標準化やルーチンタスクの自動化、データ解析、プロジェクト管理などの業務支援します。代替領域では、ナレッジデータを活用した専門タスクの自動生成や設計生成AIシステム化に取り組みます。さらに次世代モビリティの車室空間提案と実装や生産工程へのAI導入を通じて、さらなる拡張を目指します。これにより効率的かつ革新的な協力体制を築いていきます。

innovation

invention

AIによる業務**支援**
Augmentation

設計業務の標準化
ルーチンタスクの自動化
プロジェクト管理のサポート
データの解析/市場分析



AIによる業務**代替**
Substitution

ナレッジデータ学習による専門タスクのAI化
設計の自動生成
ベンチマークレポートの自動生成
CAEの高度自動化



AIによる業務**拡張**
Extension

次世代モビリティの車室空間提案と実装
小型EVモビリティの開発支援
生産工程のDX化 (AIと熟練技術者の協働)



自動車メーカーは製品全体の最適化を重視し設計から生産まで密結合されたプロセスを採用しています。一方でIT業界は、モジュール化された疎結合の開発が一般的です。これらの設計思想、生産工程の違いを融合し新たなエンジニア育成をしていきます。「安全」「娯楽」「自由」を提供するモビリティと「迅速」「効率」「自由」を提供するITシステムの融合は、両社のシナジーによって社会貢献に取り組みます。

Mobility

IT

安全

迅速

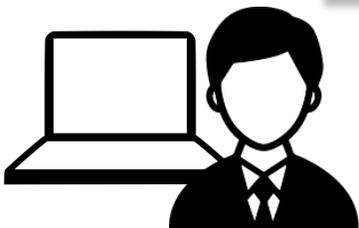
娯楽

効率

自由

自由

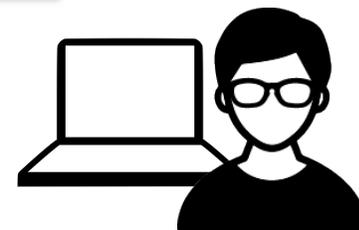
融合
fusion



密結合

アライメント

ウォーターフォール



疎結合

モジュール

アジャイル

誰にでも開かれた移動の「自由」と、誰にでも開かれた情報の「自由」の融合することこそ両社のシナジーの最大の社会貢献

CONTENTS

BEXグループイン概要

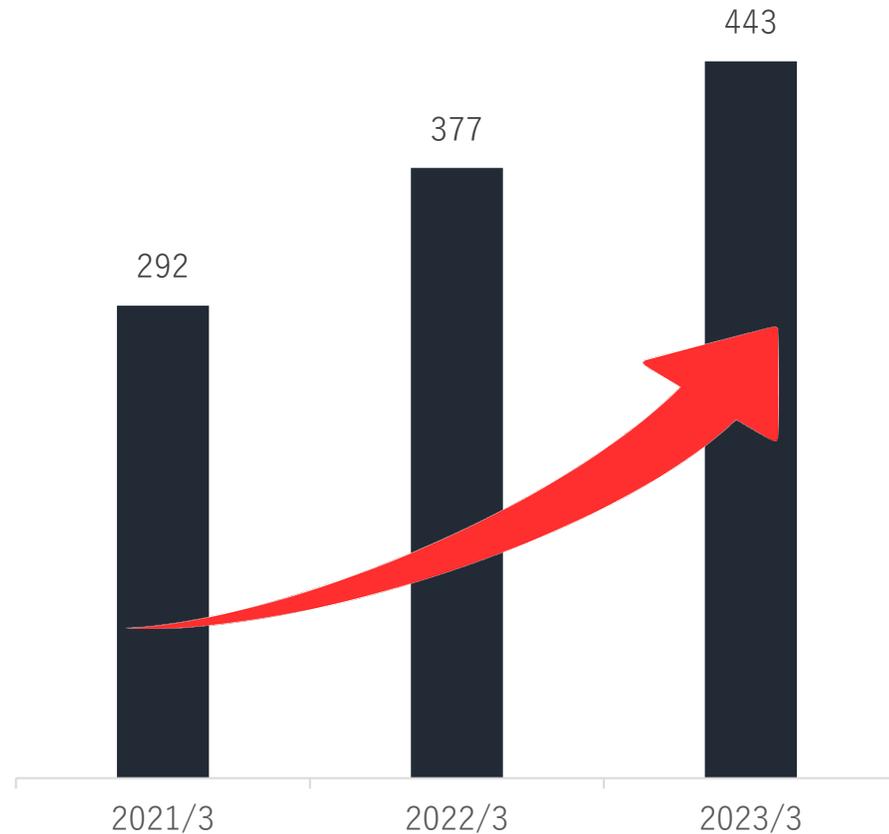
シナジー効果

財務インパクト

Appendix

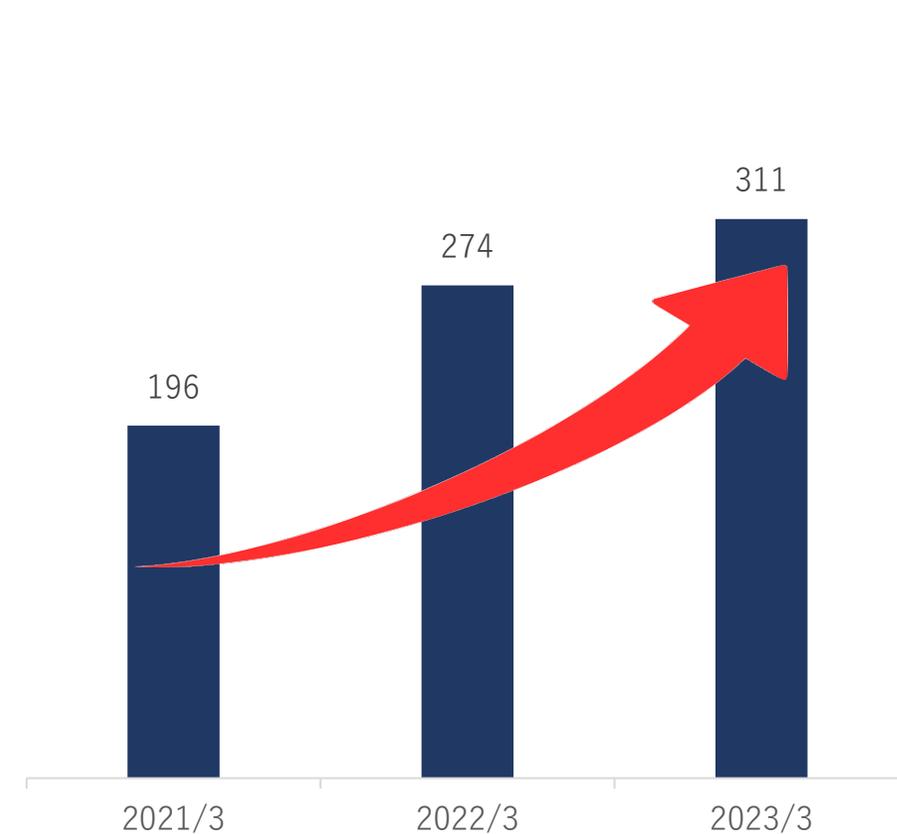
BEX 純資産残高推移

(単位：百万円)



BEX ネットキャッシュ推移

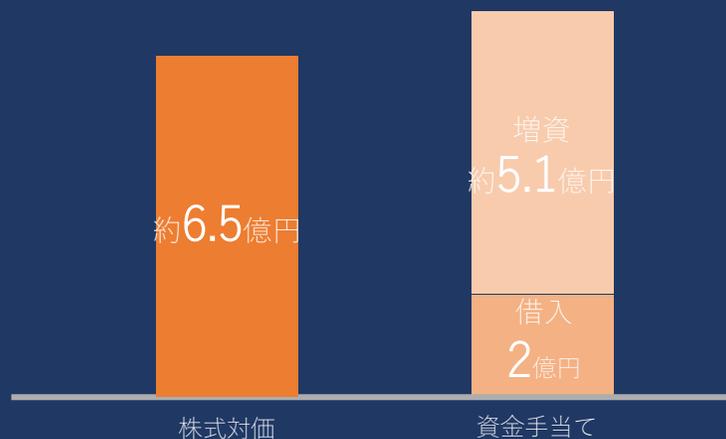
(単位：百万円)



※ネットキャッシュ推移：現金・預金残高から借入金の残高を差し引いた残高の推移

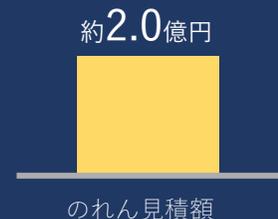
次ページ記載の株式会社BEX創業者代表取締役社長井口氏の増資により、実質自己負担なしでグループインを実現。第三者割当増資により、同氏が引き続きグループのバリューアップに寄与するベクトル合わせができているため、EBITDAや純資産の水準を踏まえて一般的なM&Aディールに比べて低い譲渡金額となっている。これによりのれん償却を上回る利益が見込まれ、グループの利益向上に寄与。

株式対価と資金手当て



- ・ 株式対価6.5億円のうち、2億円についてはみずほ銀行からの融資により調達予定、残りは井口氏に対する第三者割当増資5.1億円にて対価以上をカバー
- ・ 借入返済スケジュールは5年長期で設計、BEXのキャッシュフローを返済原資として充当

のれんの影響



- ・ 左記のれんの見積額は当社による現時点における2023年3月末のBEX純資産額より算定
 - ・ 2024年7月1日時点におけるのれん金額及び毎期の償却額については算定中
- ※来期業績予想開示までに確定予定

株式会社BEX創業家代表取締役社長井口氏は、第2四半期決算説明資料に記載のM&A戦略に即し、当社AIソリューションプラットフォームを活用した自動車設計領域におけるAI技術の開発・社会実装の実現を当社と共に目指し、また、当社グループのバリューアップへの寄与を目的に第三者割当増資5.1億円を同氏が出資する資産管理目的の一般社団法人及び同氏が引受。

当該増資による当社グループのバリューアップが、株主価値の向上に資するため、希薄化率は合理的であると考えております。

発行する株式の種類	普通株式
発行価額	5.1億円
1株当たりの発行価格	1,037円（2024年5月24日終値）
発行株式数	494,400株
引受者	一般社団法人恵那会 井口 邦（株式会社BEX創業家代表取締役社長）
議決権	あり
議決権希薄化率	6.70%

当社グループは、成長領域であるAIデータセンターの構築や自動車設計領域におけるAI技術の開発・社会実装を継続し進化させることが不可欠であるため、今回の第三者割当増資による調達資金については、以下の使途に充当する予定です。

(単位：千円)

使途		予定金額	予定時期	
			2025/8月期	2026年8月期
技術への投資	AIデータセンターの構築	150,000	100,000	50,000
	AI導入による設計業務の効率化システム 図面、部品、自動車法規等に係るAI開発 設計業務情報に係る自動生成AI関連開発	180,000	100,000	80,000
借入返済		180,292	180,292	-
合計		510,292	380,292	130,000

CONTENTS

BEXグループイン概要

シナジー効果

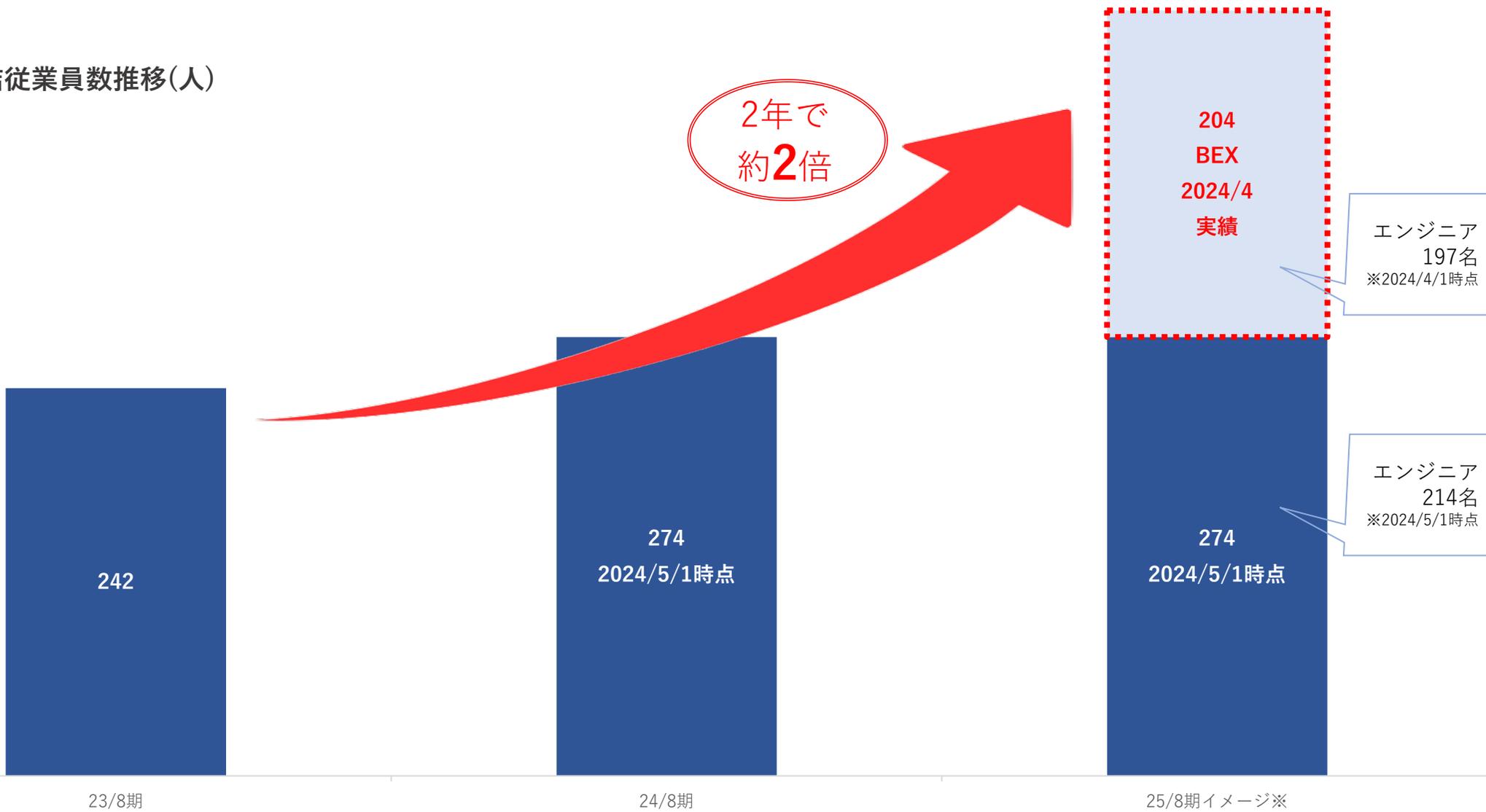
財務インパクト

Appendix

(単位：百万円)	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
売上高	1,401	1,497	1,551
売上原価	1,042	1,073	1,101
売上総利益	358	424	449
販売費及び一般管理費	292	313	363
営業利益	66	110	86
EBITDA	91	141	144
経常利益	75	120	117
当期純利益	39	84	66

※EBITDA = 経常利益 + 減価償却費 + のれん償却費 + 支払利息。当社が開示するEBITDAと同様の計算式を用いて算出しております

連結従業員数推移(人)



VISION

トリプルアイズの経営理念

テクノロジーに想像力を載せる



Realize Customize Maximize
TRIPLEIZE



Photo by Rika Takei

免責事項

- 本資料は、当社の計画、見通し及び戦略に関して、適切な理解を促進することを目的としたものであり、当社の株式の購入や売却を勧誘するものではありません。投資に際しては、投資家様ご自身のご判断において行われますようお願いいたします。
- 本資料に記載された全ての数値、指標等が監査法人による監査又はレビューの対象ではない点にご留意ください。